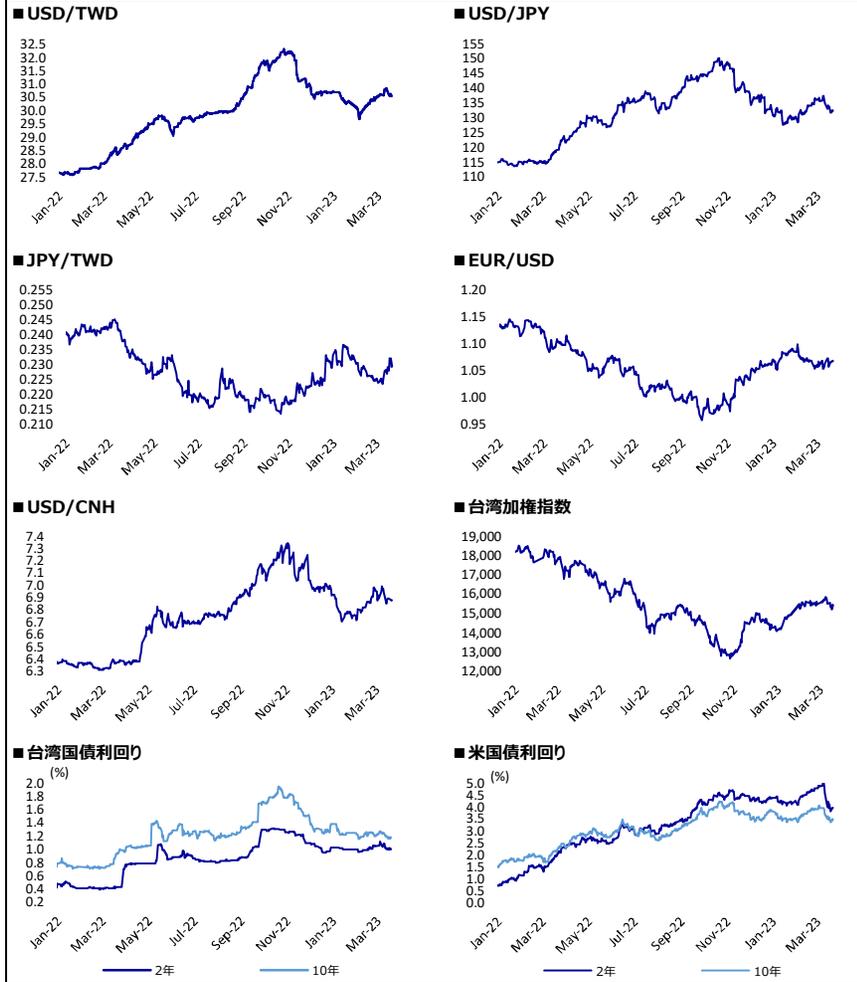


市場動向



先週の市場動向

■ USD/TWD
先週のドル/台湾ドルは下落。週初3/13は週末の米地銀の破綻の影響によるドル安の流れから30.800でオープン。FOMCの金融引き締め姿勢が緩和されるとの思惑が強まり、外資が流入し、30.62付近まで下落。3/14も引き続きドル安の流れから30.54付近まで下落するも、外国人投資家が株を売り越したことから台湾ドル売り圧力が強まり30.6台に戻した。3/15は米地銀の破綻からのリスクオフの流れが一旦落ち着いたため、台湾株が上昇したものの、方向感に乏しく、レンジで推移。3/16はスイス大手銀行にも経営不安が拡大したことからリスクオフの流れとなり、30.65付近まで上昇したが、輸出企業のドル売りも入り、上値は重かった。3/17は台湾株が反発したことから、台湾ドル買いが優勢となり、一時30.530まで下落。最終的に先週比0.9%ドル安台湾ドル高の30.554で先週の取引を終了。週間の外国人投資家の株式売り越し額は324.5億台湾ドル。

■ USD/JPY
先週のドル/円は金融不安が高まる中、リスク回避の円買いで下落。週初3/13は134.67でオープン後、先週末からの金融不安によりFOMCが金融引き締めペースを弱めるとの思惑が強まり、米金利が低下するとドル円も132円台前半まで下落。リスク回避の円買いが一巡すると133円台に戻した。3/14は米2月CPIが概ね市場予想通りであったがコア(前月比)が予想を若干上回ったことや、米株式市場が反発すると、リスクオフの流れが和らいだことから134円台後半まで上昇。しかし、露戦闘機と米空軍無人機が衝突との報道を受け、地政学リスクへの警戒感が高まると、上値を追う展開とはならなかった。3/15は134円台前半のレンジでの推移が続いたが、米金利が上昇するとドル円もつられて135.10まで上昇。しかし、スイス大手行に関する信用不安が広まるとリスクオフの流れとなり、ドル円は132円台後半まで下落。3/16はスイス中銀が流動性供給を行うと発表したことから安心感が広まり、133円台で推移していたが、ECBが前回会合で示した通り0.50%の利上げを決定するとドル円は131円台後半まで下落。しかし、経営不安視される米地銀に対して、複数の米銀が支援を協議との報道を受けるとドル円は133円台後半まで戻した。3/17は米金利が低下するとドル円もつられてじり安の展開に。破綻した米地銀の持ち株会社が米連邦破産法11条の適用申請との報道もあり、米株式市場が軟調に推移する中、一時131.56まで下落。最終的に先週比2.4%ドル安円高の131.85で先週の取引を終了。

今週の見通し

■ USD/TWD 予想レンジ：30.400-30.900
今週は上値が重い展開を見込む。金融不安が払しょくされない中、FOMCも予定されているが、見通しが不透明の中では高値圏で輸出企業がドル売りに出てくるとみられ、上値は押さえられやすいであろう。

■ USD/JPY 予想レンジ：130.00-135.00
今週もボラティルな環境が続くであろう。今週はFOMCが予定されており、金融不安が広がる中、利上げ予想は0.25%が優勢となっている。今後の見通しも発表されるため、今後の金融政策についてのメッセージに注目したい。

今週の予定

3/20 (MON)	台湾2月輸出受注
3/21 (TUE)	米2月中古住宅販売件数
3/22 (WED)	FOMC
3/23 (THU)	台湾中銀金融政策決定会合、米2月新築住宅販売件数
3/24 (FRI)	台湾2月失業率、米2月耐久財受注、米3月製造業/サービス業PMI

(Source) Thomson Reuters, Mizuho Bank

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。当資料に記載された内容は、事前連絡なしに変更されることがあります。投資に関する最終決定は、お客さまご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず、無断で引用、複製することを禁じます。